

# "破壊されたパルミラ遺跡の真のすがた" 写真展

撮影：椎根 和（編集者）



会場：ギャラリー イー・エム 西麻布

会期：2016年9月6日（火）～9月24日（土）

時間：12:00～18:00（日・月曜日休館）入場無料

住所：東京都港区西麻布4-17-10

電話：03-3407-5075



## 作品内容

動乱の極みにあるシリアという国…。そのシリア砂漠の中央に世界遺産パルミラ遺跡がある。

二千年前に一大隊商都市王国として栄華を誇った。巨大なオアシスを背景にパルミラはシルクロードの終着都市として、中国からは絹織物が、イタリアからはガラス玉などが交易された。

1800年前に、ローマ帝国によって破壊され、いままたIS国によって爆破された。

1997年、椎根和は、重苦しい平和にあったパルミラ遺跡を撮影した。重苦しいというのはアサド独裁体制が国民に重圧をかけていたことによる。しかしパルミラ遺跡はなぜか未来への希望と自由、人間の健全さというスピリットを漂わせていた。そして椎根はなぜか写真家にとって、一番大切な、“なにも考えないで撮る”という理想的な心境になった。それは2400年前の中国の荘子の教え、“分別にとらわれるな！”、“逍遙遊（しょうようゆう）＝さまよひながら遊びなさい”とピッタリ重なるものでもあった。日本でも英国でも、もうパルミラ遺跡再建の動きはスタートしている。これはパルミラ遺跡が内蔵している不思議なエネルギーが、そうさせているのだろう。なんど破壊されても立ち直る自立心を持った建造物の姿をみて欲しい。